

【国見町】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

国見町では、1 人 1 台端末を通じて、児童生徒一人ひとりの学びの可能性を最大限に引き出す教育環境の構築を目指している。特に、中教審答申で示された「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を基本的な方向性とし、子どもたちが自らの学びに主体的に取り組む、友達とともに学び合い、社会とつながる経験を深めることができるような授業づくりを推進する。

こうした学びを実現するためには、ICT 機器の単なる整備にとどまらず、学校全体としての授業改善や教職員の意識改革が重要であると考え。端末は、単なる情報収集や資料閲覧の道具ではなく、児童生徒の「思考・表現・共有」を支える学習のツールとして日常的に活用されることを目指す。最終的には、1 人 1 台端末の活用を通じて、子どもたちが主体的に課題を発見・解決し、自らの学びを振り返り、次の学びにつなげていく力を育成することが本町の目指す教育の姿である。

2 GIGA スクール構想第 1 期の取組の総括

令和 3 年度に国見町内の小中学校に 1 人 1 台端末 (iPad) を整備し、GIGA スクール構想の基盤整備を完了した。当初は端末の操作習熟や通信環境の課題などがあったものの、各校に配置された ICT 支援員の支援や、教職員による工夫により、端末は現在、週 3 回以上の頻度で安定的に活用されている。

児童生徒は、調べ学習、プレゼンテーション、動画視聴、学習プリントの配信・回収といった用途で端末を活用するようになり、情報活用能力の向上が見られている。一方で、教職員向けの体系的な ICT 研修はこれまで実施されておらず、ICT 支援員への依存度が高いこと、活用の幅が教員ごとにばらついていることなどの課題も明らかとなった。また、ネットワーク環境の混雑や通信速度の遅延も、授業中の活用における障壁の一つとなっている。

このように、GIGA 第 1 期では一定の成果を上げる一方で、継続的な支援体制や研修の仕組み、環境整備の面で課題が残されており、次期計画においてはこれらの課題を解決しつつ、より安定した利活用環境の構築が求められている。

3 今後の利活用の方策

今後は、児童生徒の情報活用能力を一層高め、より深い学びを実現するため、1 人 1 台端末を「日常的な学習の道具」として、教科を問わず継続的に活用できる体制を整えていく。

特に、タブレットを使って「調べる」「まとめる」「共有する」といった活動を意図的に授業に組み込むことにより、思考力・表現力・協働性を育てる授業改善を全校的に推進する。

その実現に向けては、まず教職員の ICT 指導力の底上げが不可欠である。これまで未実施であった教職員向けの ICT 活用研修については、令和 7 年度より年 1 回以上の実施を基本とし、教科別活用事例の共有、校内公開授業、ICT 活用に関する校内研究の機会を設けるなど、校内での実践共有の場を意識的に設けていく。

また、ICT 支援員については、現在週 2 回の配置を維持しつつ、単なる技術的支援にとどまらず、授業の設計や教材準備段階から教員と連携し、活用促進に向けた助言ができる体制を目指す。あわせて、ネットワークの整備計画とも連動し、通信環境の安定化にも取り組み、授業中に「つながらない」「動かない」といったストレスを感じることをない環境づくりに努める。

さらに、端末の活用は教科学習のみにとどまらず、児童生徒の心の健康観察、不登校傾向の早期把握、学級経営の支援といった教育相談の観点からも活用が期待されている。特に、家庭との連携においては、アプリを通じた連絡やデジタル連絡帳などの仕組みを活用し、保護者と子どもをつなぐ支援ツールとしての役割を果たすよう推進していく。

今後も、ICT の導入が目的化することなく、あくまで「学びを支える手段」として定着するように、現場の声を丁寧に聞きながら段階的かつ現実的に取組を進めていく。